

【兵庫県 朝来市】
校務DX計画

1. これまでの総括

朝来市では、平成29年度より、校務支援システムを導入し、児童・生徒の出欠席の情報はじめ、指導要録や保健調査票等の帳簿、成績の管理を行っている。併せて、市内小中学校教職員向けのグループウェアも導入しており、教職員間の連絡や資料の配布等の作業の簡略化が進んだ。

さらに、保護者向け連絡アプリを導入したことで、緊急の連絡事項やお便りの配信、ならびに、保護者からの欠席連絡等をオンラインで行えるようになった。

2. 朝来市における今後の取り組み

(1) 学校内の連絡のデジタル化

教職員一人ひとりにアカウントが付与されており、クラウドサービスを活用できる環境となっている。職員会議等の資料をクラウド上で共有し、ペーパーレス化を進めている学校もある。また、日々の連絡・調整やスケジュールの共有にクラウドサービスを活用する学校が徐々に増えてきている。

このようなクラウドサービスの活用状況は学校によって異なるため、ICT担当教員の連絡会議やICT研修会の場で好事例を共有し、さらなる活用を推進する。

(2) 教職員と児童生徒間のデジタル化

AIドリル教材を導入し、1人1台端末で学べる環境が整備されており、児童生徒の個に応じた学習に取り組んでいる。

令和7年度には、教職員の授業運営をサポートする授業支援システムを導入する予定であり、効果の検証を行っていく。

(3) 次世代校務デジタル化に向けた環境整備

前述した授業支援システムの活用により、「協働的な学び」のさらなる充実が図れるほか、同様に令和7年度から、中学校にはテストのデジタル採点システムを導入し、教職員の負担軽減と事務の効率化を推進する。

また、高度なデジタル機器や新しいシステムを活用するためには、教職員のスキルアップが必要となることから、引き続きICT研修会の機会を設け、教職員のICT機器の操作スキル、システムの活用スキルの向上を推進する。